

洪水・土砂災害に備えて

保存版 ～防災意識を高めるために～

発行：令和3年3月 養父市

養父市ハザードマップは、降雨確率1/1000年規模を超える非常に大きな降雨（想定最大規模降雨）により河川が氾濫した場合に浸水が想定される区域や、がけ崩れや地すべりなどの土砂災害が予想される危険区域などを示しています。

このハザードマップは、日ごろから自然災害に対する地域の防災意識を高め、災害の発生が予想される際には、的確かつ迅速な避難行動が可能となるよう作成したものです。

なお、ハザードマップに示していない場所でも、状況によっては浸水や土砂災害が発生する場合がありますのでご注意ください。

雨の強さと降り方

1時間雨量	予報用語	人の受けるイメージ	災害発生状況
10～20mm	やや強い雨	「ザーザーと降る」	この程度の雨でも長く続くときは注意が必要。
20～30mm	強い雨	「どしゃ降り」	側溝や下水、小さな川があふれ、小さながけ崩れが始まる。
30～50mm	激しい雨	「バケツをひっくり返したように降る」	山崩れ、がけ崩れが起きやすくなり、危険地帯では避難の準備が必要。
50～80mm	非常に激しい雨	「滝のように降る」「ゴーゴーと降り続く」	マンホールから水が流出する。土石流が起こりやすい。多くの水害が発生する。
80mm～	猛烈な雨	「息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる」	雨による大規模な災害が発生するおそれ強く、厳重な警戒が必要。

洪水時の避難

浸水時の歩行は困難



歩ける深さは男性で約70cm、女性で約50cm。水深が腰まであるようなら無理は禁物です。高所で救助を待ちましょう。

足元に注意



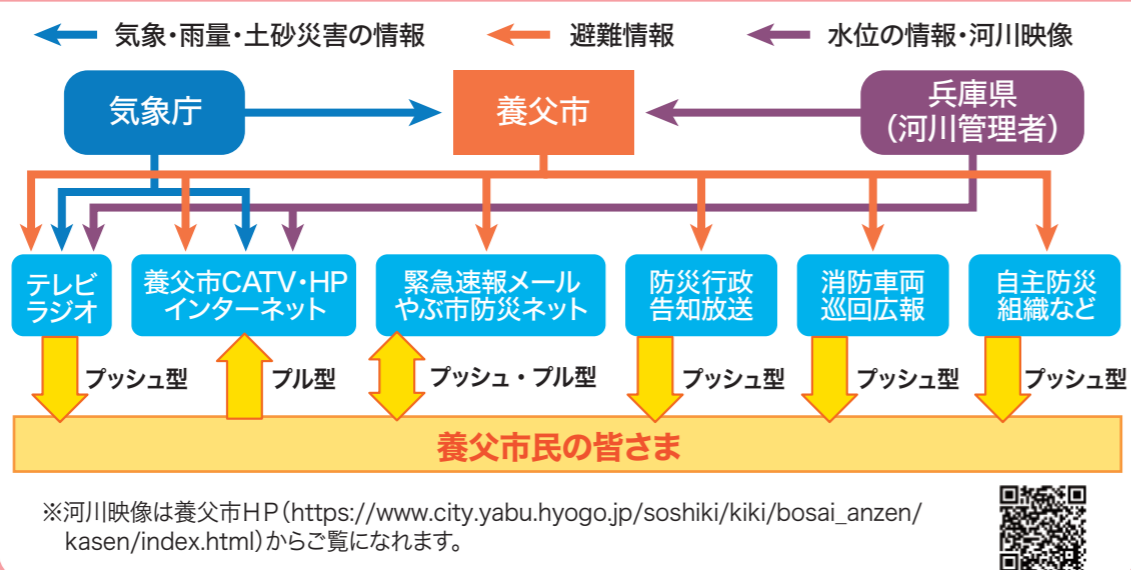
水面下はどんな危険が潜んでいるかわからないので、長い棒を杖代わりにして安全を確認しながら歩きましょう。裸足、長靴は禁物です。ひもで締められる運動靴がよいでしょう。

子ども等を安全に避難



はぐれないようにお互いの体をロープで結び、手を握って避難しましょう。特に子どもから目を離さないようにしましょう。

情報の伝わり方 災害時には、自ら積極的に情報収集しましょう。



※各戸に配布している行政区単位の「養父市防災マップ」が必要な場合は、養父市HP (https://www.city.yabu.hyogo.jp/soshiki/kiki/bosai_anzen/4/3/index.html) からダウンロードしてください。

安全に避難するために！

市は、気象情報や河川水位情報など災害の危険を知らせる情報をもとに、必要に応じて避難情報などを発令します。この情報は、災害の危険度の高まりを5段階の警戒レベルでお知らせし、適切な避難行動を取っていただくためのものです。市民の皆さまは、市役所等から配信する防災情報に注意し、命を守るための最善の行動を取るようにお願いします。

警戒レベルと取るべき避難行動等 ～警戒レベル3で高齢者等、4で全員避難を～

警戒レベル	1	2	3	4	5
避難情報等	早期注意情報	大雨注意報 洪水注意報など 災害に備えた行動!	避難準備・ 高齢者等避難開始 高齢者等は避難!	避難勧告 避難指示(緊急) 全員避難!	災害発生情報 極めて危険!
市民が取るべき避難行動等	災害に備え、 気象情報を確認する。	家の周りの片付けや、 非常持ち出し品を確認する。	避難に時間を要する人 (高齢者、障がいのある人、 乳幼児等)とその支援者は避難を始め、 その他の人は避難の準備を整える。	洪水や土砂災害の発生、 道路冠水などで避難が困難となる場合に備え、 直ちに避難を済ませる。	すでに災害が発生している状況です。 命を守るための最善の行動をとる。

※各種の情報は、警戒レベル1～5の順番で発表されるとは限りません。また、警戒レベルの基準は令和3年3月31日現在の基準です。

情報収集ツール

●やぶ市防災ネット

「やぶ市防災ネット」は緊急情報などを配信するための防災システムです。メールアドレスを登録しておく、やぶ市防災ネットHPが更新されるたびにメールでお知らせします。台風などで市内に災害が起きる恐れがあるときや災害が発生したときに、避難勧告などの緊急情報や気象情報などが携帯電話やパソコンのメールへ配信されます。

yabu@bosai.net宛てに空メールを送信してください。または右のQRコードを読み取り、空メールを送信してください。

●ひょうご防災ネットアプリ

「ひょうご防災ネット」は兵庫県および兵庫県内の市・町から避難に関する情報や地震、津波、気象警報などの防災に関する様々な情報を利用者の方々に提供するサービスです。下記のQRコードを読み取りアプリをダウンロードしてください。



日ごろから備えておきましょう！

災害の危険性を把握しておきましょう。

防災マップには、土砂災害や浸水被害が発生しやすい場所など、危険性の高い場所が示されています。自宅周辺で災害が発生する危険性がないかを事前に把握しておきましょう。



非常持ち出し品等を準備しておきましょう。

水道や電気などライフラインの停止や、急いで避難しなければならない場合に備えて、食料、飲料水、防寒着など、非常持ち出し品を準備しておきましょう。



自主防災組織や各種団体で定期的に避難訓練をしましょう。

ハザードマップを活用して定期的な避難訓練を実施することは、地域の防災意識を高めるとともに、防災リーダーの育成のために非常に有効です。市民の皆さまは、地域の避難訓練には積極的に参加しましょう。また、養父市では災害に関する出前講座「もしもの災害に備えて」を実施していますので、活用を検討してください。



避難場所・経路・方法を確認しておきましょう。

避難が必要な場合は、避難情報(避難準備・高齢者等避難開始、避難勧告など)を発令します。市民の皆さまは、指定緊急避難場所への経路、方法を家族や地域で確認しておきましょう。



避難時に注意すること

家を出る時は、漏電ブレーカーを切り、ガスの元栓を閉めて避難してください。また、ご近所の皆さんと声をかけあって避難しましょう。

